

漢 字

尾崎 久美子

1. はじめに

1996（平成8年）10月に出版された *Japanese for College Students: Basic*（全3巻）のうち、各課のWRITING [KANJI] のセクション、巻頭の「この本を使う人のために」の「WRITING 書き」および巻末の KANJI INDEX の執筆を担当した者として、ここに漢字教材の開発報告をしたい。本報告の構成は次の通りである。

2. 作成にあたっての基本方針
3. 400字と提示語彙の選択基準
4. 教科書の概要
5. 使用した学生の評価と今後の課題
6. 資料（教材例）

2. 作成にあたっての基本方針

本教科書作成にあたっては、次の方針が合意された。¹⁾

〔漢字教材の方針〕

- 1 本冊²⁾、読み方教材のいずれかに出ていない語彙は漢字教材に入れない。
- 2 漢字の数は、読み書き（245）読みのみ（155）全部で400字とする。
- 3 部首、つくり、なりたちなどはコラムで紹介する。

この方針には、本教科書の前身ともいえるべき *Japanese for University Students, Today*³⁾の漢字教材の評価および反省が反映されている。その評価については、教師と学生双方によるマイナス評価、プラス評価とも、拙稿「初級用教科書開発報告——漢字」⁴⁾に詳しいが、ここで再度まとめると、次のような点が出されていた。

■ *Japanese for University Students, Today* (1990) の漢字教材に対する評価

〔学生によるマイナス評価〕

- ・漢字や語彙に意味をつけてほしい。
- ・語彙に読み方をつけてほしい。
- ・一課に出てくる漢字数が多い。
- ・一課に出てくる漢字数が少ない。
- ・一課に出てくる語彙数が少ない。
- ・大学構内や街で見かける言葉のような実用的な例がほしい。
- ・習った漢字を使った読み物教材がほしい。

- 練習問題は、もっと復習の部分がほしい。
- 練習問題で、もっと文を書きたい。
- 練習問題に解答をつけてほしい。

〔教師によるマイナス評価〕

- 初級に適切でない読み方・語彙が出てくる。
- 初級に適切な語彙がぬけている。
- 例文が少ない。
- 例がないのに音訓だけが紹介されていることがある。
- 復習教材が充実していない。
- テキストの本文（文法）との関連のない語が出てくる課は学生にとって覚えにくいのではないか。
- 一つの課の中の漢字に意味や形のつながりがないと学生にとって覚えにくいのではないか。

〔学生によるプラス評価〕

- 役に立つ。
- ちょうどよい。
- 筆順が書いてあるのがよい。
- 一課に出てくる漢字数がちょうどよい。
- 練習問題は自分で復習するのにとてもよい。

〔教師によるプラス評価〕

- 使いやすい。
- 手書きによる提示はよい。
- 一つの課の中の漢字に意味や形のつながりがある課は学生にとって覚えやすい。
- テキストの本文（文法）との関連のある語が出てくる課は学生にとって覚えやすい。
- 漢字だけを学びたい学生にも適している（ある程度内容が独立しているため）。
- 練習問題は毎課同じ形式なのでやりやすい。

以上のような評価をふまえて、上記の方針の1「本冊、読み方教材のいずれかに出ていない語彙は漢字教材に入れない。」が決定されたのであるが、さらにこの他に尾崎は作成にあたって次のような点を提案し了承された。

- 1 400字の漢字とその語例は初級語彙で使われるものであること。
- 2 一つの課の漢字はできるだけ意味や形の関連があるものを配列すること。
- 3 漢字教材は手書きに近い教科書体の活字を使用すること。
- 4 音訓はそこに語例を提示する読み方のみをのせること。
- 5 漢字と語例の意味を英語でのせること。

- 6 筆順をのせること。
- 7 提示した漢字を見ながら練習ができるように、漢字のすぐ脇に練習用のマスを設けること。
- 8 語例にはルビをつけること。
- 9 練習問題はその課の漢字だけでなく、それ以前に習った漢字の練習をなるべく多く入れること。
- 10 縦書きを原則とすること。

その結果できあがったのがこの教科書であるが、印刷やレイアウトの都合上語例の数や漢字の練習用のマスの数が削られたことを除けば、概ねこの10点はクリアできた。しかし、初めに合意された方針の1「本冊、読み方教材のいずれかに出ていない語彙は漢字教材に入れない。」に関しては、全課でこの条件を満たすことはできなかった。⁵⁾ その理由について、次の章で言及する。

3. 400字と提示語彙の選択基準

初めの合意2「漢字の数は、読み書き(245)読みのみ(155)全部で400字とする。」に基づき、まず400字を選択した。ここで「読み書き」漢字とは、学習者に読み方と書き方の両方を覚えることを要求する漢字のことで、これは各課の「新しい漢字」というパートで漢字一つ一つが表の形で詳しく提示される。反対に「読みのみ」漢字とは、書けなくてもいいが、読み方を覚えてほしい漢字のことで、各課では「読み方を覚えましょう」というパートで、その漢字を使った語彙とその読み方と意味だけが提示される(「6. 資料」参照)。

「読み書き」漢字の245字は、日本語能力試験の3、4級で要求される漢字をあてた。それが、次の245字である。

■ 「新しい漢字」のリスト (音の五十音順)

悪	安	以	医	意	一	員	院	飲	右	雨	運	英	映	駅
円	屋	音	下	火	何	花	夏	家	歌	画	会	海	界	開
外	学	楽	間	漢	館	気	起	帰	九	休	究	急	牛	去
魚	京	強	教	業	近	金	銀	空	兄	計	月	犬	見	建
研	験	元	言	古	五	午	後	語	口	工	広	考	行	校
高	国	黒	今	左	作	三	山	子	止	仕	四	死	私	使
始	姉	思	紙	試	字	自	事	持	時	七	室	質	写	社
車	者	借	手	主	秋	終	習	週	集	十	住	重	出	春
書	女	小	少	上	場	色	食	心	真	新	親	人	図	水

世 正 生 西 青 夕 赤 切 千 川 先 前 早 走 送
 足 族 多 体 待 貸 大 代 台 題 男 地 知 茶 着
 中 注 昼 町 長 鳥 朝 通 弟 天 店 転 田 電 土
 度 冬 東 答 同 動 堂 道 特 読 南 二 肉 日 入
 年 売 買 白 八 発 半 飯 百 病 品 不 父 風 服
 物 分 文 聞 別 勉 歩 母 方 北 木 本 毎 妹 万
 味 名 明 目 問 夜 野 友 有 用 洋 曜 来 理 立
 旅 料 力 六 話

(245字)

「読みのみ」の155字は尾崎が選んだ。選ぶ際に次の3点を基準とした。

- 1 教科書の他の部分で使用されている語彙の漢字であること。
- 2 日本語能力試験3、4級の語彙の漢字であること。
- 3 これまでの研究に基づいた基本的な漢字であること。

第3点については、前回の教科書作成時に調査した基本漢字のほかに、新たに7冊の別の初級用テキストを調査して基本漢字を選び出した⁶⁾。第1点については尾崎が漢字を中心とした語彙表を作成し、第2点と第3点の2つの条件にあてはまる漢字を選んだが、155字には字数が足りなかった。理由として一番大きかったのは、この教科書の語彙と日本語能力試験の語彙がずれていたことであった。そのため、第2点と第3点の2つだけを満たす漢字をここに入れざるを得なくなり、前章でふれたような条件をクリアできない漢字が入ったという次第である。さらにこれにはもう一つの理由がある。教科書作成は漢字だけ独立して行われていた訳ではなく、他の部分と平行して行われていた。よって各課の語彙表を作成しても、その後で文法項目が入れ替わったり、語彙が足されたり削られたりしていたのである。出来るだけずれがないように、教科書作成の最終段階まで調整を行ったが、いくつかの語彙は調整できずに残ってしまったものもある。このようにして次の155字が決定された。

☒ 「読み方を覚えましょう」だけに出てくる漢字のリスト (音の五十音順)

案 暗 引 泳 園 遠 押 横 化 価 荷 過 回 階 覚
 活 割 寒 感 顔 願 期 器 機 義 議 客 局 経 軽
 決 結 故 公 交 光 向 好 降 港 号 合 婚 座 濟
 最 際 市 指 齒 次 耳 治 辞 式 失 実 若 取 首
 酒 受 宿 術 準 初 所 暑 助 消 状 常 乗 申 信
 寝 数 成 声 性 政 晴 静 石 席 雪 説 専 洗 船

線 選 全 然 組 相 束 速 続 卒 打 太 宅 短 談
 調 直 痛 低 定 鉄 伝 都 頭 働 内 配 晩 番 非
 飛 美 備 必 部 払 閉 米 返 変 便 訪 忘 枚 末
 無 毛 約 薬 由 遊 予 要 様 絡 落 利 留 両 礼
 冷 例 連 練 論

(155字)

4. 教科書の概要

教科書の第17課のコピーを「6. 資料」につけておいたので参照されたい。

各課は次の4つのパートから成る。

- A. 読み方を覚えましょう
- B. 新しい漢字
- C. 書く練習
- D. 読む練習

当初はB.A.C.D.の順の予定だったが、印刷やレイアウトの都合上、この順番となった。大見出しに WRITING [KANJI] とあるのに、読み方から始まっていることで、議論になったが、やむをえずこの順となった。しかし、さらに大きな問題は、A.の部分の活字の大きさが当初よりかなり小さくされたことで、これもやはりレイアウトの都合上こうなってしまった。この点は次章でも述べる問題点の一つとなっている。C.D.の練習問題も、当初は2ページを使って大きな活字で、書き込みができるような練習問題にする予定であったが、本全体のページ数削減のため1ページに全ておさめることとなった⁷⁾。同じ理由で削られたものに、初めの合意の3「部首、つくり、なりたちなどはコラムで紹介する。」という点がある。漢字表の余白を使ってこれらを入れる予定であったが、やはりページ数の関係上、ほとんど余白はなく、結局第17課の余白に「体の部分 Parts of the body」を小さく入れるのみにとどまった(「6. 資料」参照)。次に各課の「新しい漢字」と「読み方を覚えましょう」の語彙のリストを示す。

課	新しい漢字	読み方を覚えましょう
1	日本人大学先生中	何
2	一二三四五六七八九十	午前、午後、～円、郵便局
3	今時分半前後午何	行く、来る、見る、食べる、朝、今晚
4	月火水木金土行来	～時間、書く、飲む、買う、会う、乗る
5	白古明小少多高新	部屋、便利、不便、仕事、東京、車
6	見買言話読書食飲	～枚、公園、映画館、駅、近所、銀行

7	百千万円山川年（々）	週末、好き、～回、旅行する、音楽、料理する
8	子友元気外休会語	両親、宿題、予定、今度、交通、用事
9	上下左右間雨電車	向こう、横、取る、消す、病院、～屋
10	天出事用仕社重聞	速い、軽い、初めて、次、理由、低い、太い
11	毎週住使着帰持待	覚える、結婚する、連絡する、打つ、例
12	国館図映画銀堂駅以	暑い、寒い、船、晴れる、成田、空港、非常口
13	入名田早朝運転近	座る、働く、最近、地下鉄、新宿、遠い
14	東西南北広同町京	痛い、若い、席、信じる、一番、飛行機、葉
15	春夏秋冬旅族家物	連れて行く／連れて来る、調べる、新幹線、都市、美術
16	男女父母兄弟姉妹	頭、洗う、数学、短い、寝る、忘れる
17	口足目手体心思自	声、耳、顔、歯、首、指、髪の毛
18	海文字漢考教習校	訪ねる、押す、引く、選ぶ、予約する、必要な、都合、交番
19	品台花茶正計長員	お宅、お酒、食器、申す、義理、卒業する、お客さん
20	作開写真料理勉強地	直す、荷物、願う、手伝う、案内する、説明する
21	昼夕夜止集動始業有	閉まる、閉める、雪、国際、経済、政治、所
22	質問題答親切店屋	静かな、相談する、準備する、約束する、全部、暗い
23	死病院医者世界急歩	論文、学期、天気予報、伝える、男性、女性、数、物価
24	色赤青黒悪英試験	石、続ける、変わる、受ける、文化、実は、冷たい
25	魚肉野鳥牛犬飯味	練習する、落ちる、結婚式、降る、番組、返事する、辞書
26	知方力工立私走起	光、感じる、無理、専攻、～様、～階、会議
27	研究室空紙発売風	出席する、過ごす、卒論、推薦状、払う、降りる
28	注意代建度貸借去	留学生、助ける、助かる、米、返す
29	場道通曜歌不音楽	自然、泳ぐ、心配する、失礼する、割る、遊ぶ
30	安特別送主洋服終	例えば、数字、生活する、決める、事故、番号

（尚、第7課で繰り返し符号の「々」を紹介している。また、ルビ付きの漢字の読みは覚えなくてもよい。）

5. 使用した学生の評価と今後の課題

96年秋学期から97年秋学期までの四学期にわたって、11のコースでこの教科書が使用されたが、まず、その時の学生の評価を紹介したい。次に挙げるのは、その中でも特に多数の意見が出ていたものである。

〔学生によるマイナス評価〕

- ・「読み方を覚えましょう」の漢字が小さすぎる。
- ・その言葉自体も知らないのに漢字を覚えなくてはいけないのでたいへんだ。
- ・「新しい漢字」の提示される順番がおかしい。(初めの方の課で習うべき漢字が後の方で出てくる。)
- ・何か漢字を記憶するための助けがほしい。

〔学生によるプラス評価〕

- ・すばらしい。よくできている。
- ・役に立つ。
- ・提示の仕方がよい。
- ・一課の漢字の量がちょうどよい。覚えるのにちょうどよい量だ。
- ・練習問題もとてもよい。役に立つ。

マイナス評価の中で一番多かった意見は「読み方を覚えましょう」の漢字の活字の大きさであった。このことについては、前の章でもふれたが、レイアウトの都合上、これ以上大きな活字は無理という判断が出版社側からあり、練習問題の活字の大きさも含めて出来るだけ大きなものを、とのこちらの要望を出したが、現状のとおりとなってしまった。今後、この点の改善が望まれる。

この他、教師から、次のような指摘があった。

- (1) 練習問題に習っていない文法を使った文が出ている。
- (2) その課で習う漢字はその課の他の部分(例えばドリルや読み教材など)ですでにルビがとれているので、コースのスケジュールを組む際に一課の最初に漢字のクラスをするように徹底すべきだ。
- (3) 「読み方を覚えましょう」の語彙に脈絡がない。

(1)については、初級の段階で出してもいいのでは、と判断したものをあえてのせているものもある(文法項目のチェックの段階で見落とししたものもある)が、それならば注をつけるべきであった。(2)は漢字教材の問題点というより、教科書全体の表記の問題や、コースの持ち方、教科書の使い方に属する問題である。(3)については、その語彙はその課の文法項目や読み教材などからとられていて、「新しい漢字」と関連がないものが多い(例外あり。例えば第17課。)そう見えるのであるが、このことも詳しく巻頭の「この本を使う人のために」で言及すべきであった。

以上の点や、他の今回言及しきれなかった問題点を今後の課題として改訂作業にあたり

たい。

6. 資料（教材例）

以下に教材の例として第 17 課のコピーをつける。

WRITING

[KANJI]

読み方を覚えましょう

かた

声 (こえ): voice

歯 (は): tooth

髪の毛 (かみのけ): hair

耳 (みみ): ear

首 (くび): neck

顔 (かお): face

指 (ゆび): finger

新しい漢字

かんじ

ことば	れんしゅう	口
1 くち		くん おん
2 入りぐち		
3 でぐち		くち ぐち
4 みなみぐち		いみ
5 じんこう		a mouth
	かきじゅん	
		1
		口
		口
1 a mouth		
2 an entrance		
3 an exit		
4 the south gate		
5 population		

131

ことば	れんしゅう	足
1 あし		くん おん
2 た		
3 た		あし たりる たす
		いみ
		a leg, a foot, to be enough
	かきじゅん	
		足 1
		足 口
		足 口
		足 足
		足 足
1 a leg, a foot		
2 to suffice		
3 to add		

132

ことば	れんしゅう	目
1 め		くん おん
		め
		いみ
		an eye
	かきじゅん	
		1
		目
		目
		目
		目
1 an eye		

133

134

ことば	れんしゅう	手
1 手 て	手	くん おん
	手	て
		いみ
		a hand
	かきじゅん	
		休
		休
		休
		休
		休
1 a hand		

135

ことば	れんしゅう	体
1 体 からだ	体	くん おん
	体	からだ
		いみ
		body
	かきじゅん	
		休
		休
		休
		休
		休
1 the body		

136

ことば	れんしゅう	心
1 心 こころ	心	くん おん
	心	こころ
		いみ
		heart
	かきじゅん	
		休
		休
		休
		休
		休
1 mind, the heart		

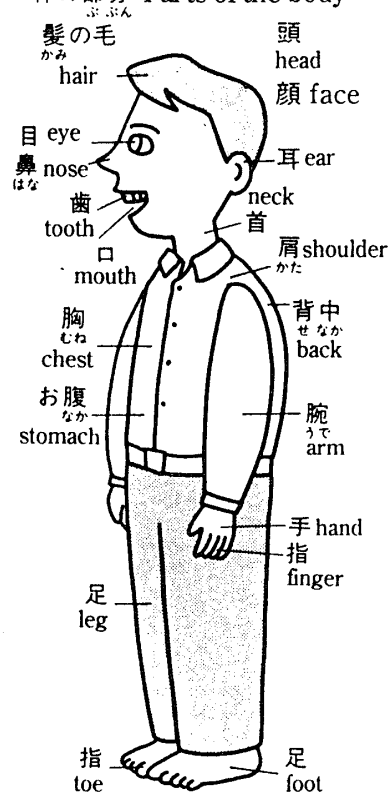
137

ことば	れんしゅう	思
1 おも 思う 2 おも 思い出す	思	くん おん
	思	おも
		いみ
		to think
	かきじゅん	
		思
		思
		思
		思
		思
1 to think, to consider 2 to remember, to recall		

138

ことば	れんしゅう	自
1 自分 自分 2 自転車	自	くん おん
	自	じし
		いみ
		self, auto-
	かきじゅん	
		自
		自
		自
		自
		自
1 oneself 2 a bicycle		

体の部分 Parts of the body



書く練習 れんしゅう

- 一、のでっています。ください。
- 二、の都市のを調べました。
- 三、とが痛いんです。
- 四、を忘れていせません。
- 五、からまででです。
- 六、たくさんをんだのでがつかれました。
- 七、で料理します。
- 八、に乗ってが痛くなった。
- 九、のでっていることをして
- 十、がで、あちらがです。

読む練習 れんしゅう

- 一、もつと大きい声で話してください。
- 二、口を開けて、歯を見せてください。
- 三、耳が痛いんですか。それとも目が痛いんですか。
- 四、自転車から落ちて、顔をけがした。
- 五、髪かみの毛が短いので、首が寒い。
- 六、手の指と足の指を足すと、二十本になる。
- 七、田中さんは体が軽い。
- 八、心の中で色々なことを考える。
- 九、週末は、自分の家で過すごします。
- 十、あしたもいい天気だと思います。

注

1. 1995年10月6日の初級教科書編集会議（出席者：平田・村野・根津・小川・尾崎・田中）の決定事項。これは後の日本語教育プログラム教員会議で承認された。
2. 当初、漢字と読み教材はドリルや文法などとは別冊と考えていたため、ここで「本冊」という言葉を使っている。ここの「本冊」とは、現在の教科書の LISTENING AND SPEAKING 部分を指す。
3. 1989年秋から開発を開始、1990年6月に試用版第1版、9月に第2版が完成。
4. 『ICU日本語教育研究センター紀要』第1号（1991）、pp.38-56 所収。
5. この合意の1「本冊、読み方教材のいずれかに出ていない語彙は漢字教材に入れない。」にあてはまらない語彙は次のとおり。ここにはないものは教科書のどこか（その課とは限らず、前の課、後ろの課ということもある）に必ず使用されている語である。（数字は課の番号を示す。紛らわしいものについては括弧内に読み方を示した。）
[「新しい漢字」の漢字表の語彙で教科書の他の部分で使用されていないもの]

- 1 生きる
- 3 今月
- 4 月（つき）・今月・先月・木（き）・金（きん）・土（つち）・来月
- 5 少し
- 7 川・年（とし）・人々・年々（ねんねん）
- 8 子（こ）
- 9 上げる・上がる
- 10 用
- 11 毎月（まいつき）・毎年（まいとし）・毎週
- 12 帰国する・以下・以外
- 13 早い・毎朝（まいあさ）・近い
- 15 冬・家（いえ）
- 16 男・男の人・男の子・女・女の人・女の子
- 17 口・南口・足・足す・体（からだ）・思い出す
- 18 文（ぶん）・教会
- 19 学長・銀行員
- 20 写す
- 21 昼休み・昼間・夕方・夕ご飯・今夜
- 22 答える
- 23 世話する
- 25 魚屋・肉屋・牛（うし）・牛肉・牛乳・夕ご飯・味（あじ）・興味

- 26 知らせる・夕方・力（ちから）・工業
- 27 空
- 28 意味・代わりに
- 29 工場・場合・水道・通る・通う
- 30 特に・別れる・主人・ご主人・東洋・西洋

「読み方を覚えましょう」の語彙で教科書の他の部分で使用されていないもの]

- 10 太い
- 12 非常口
- 15 連れて来る
- 17 耳・顔・首・指・髪の毛
- 23 男性

6. これについては尾崎が日本語教育センター・日本語教育プログラム研究例会 14（1995年2月17日）で「日本語教材における漢字について」という題で報告を行った。ここで簡単にその概要を紹介する。

☒ 「基本漢字」についてのそれまでの研究には次のようなものがある。

- A 『日本語教育機関におけるコースデザインの方法と
コース運営上の教師集団の役割の分担に関する調査
研究-----報告書』 5 3 0 字
- B 北條淳子「初級日本語教科書に提出可能な漢字の分
析」『早稲田大学語学教育研究所紀要 14』 3 4 6 字
- C 拙稿「基本漢字の試み」『ICU日本語教育研究セ
ンター紀要 1』 5 1 6 字

☒ 初級教科書 7 種を調査し、日本語能力試験の出題基準と比較した結果
7 種の書名と漢字の字数は次の通り。

- ・ *ICU, Modern Japanese for University Students, Part 1 (1963).* 4 1 0 字
- ・ N. S. Brannen, *Japanese by the Total Method, Part 1-3 (1976-8)* 5 0 4 字
- ・ 小出詞子『にほんご・にっぽんご』(1985) 5 0 9 字
- ・ 国際交流基金『日本語初歩 漢字練習帳1-2』(1985) 3 8 3 字
- ・ 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子『Basic Kanji Book
500 vol. 1-2』(1989) 5 0 0 字
- ・ Kanji Text Research Group, University of Tokyo, *250 Essential
Kanji for Everyday Use* (1993) 2 5 0 字
- ・ 豊田豊子『よく使われる新聞の漢字と熟語』(1981) 5 0 0 字
- A 3 級・4 級の漢字で 7 種の本全てで扱われている漢字

安 意 一 右 駅 円 下 火 会 外
 学 間 館 気 究 教 業 金 銀 計
 月 見 研 験 午 後 語 口 行 高
 国 左 山 子 止 使 自 事 時 室
 車 者 手 終 週 住 出 書 小 上
 場 食 新 人 水 正 生 西 切 千
 前 大 代 地 知 着 中 注 通 電
 土 東 動 道 南 日 入 年 売 買
 半 物 分 文 歩 方 北 木 本 毎
 万 名 明 目 有 用 洋 曜 来 立
 料 話

102字

B 2級の漢字で7種の本全てで扱われている漢字

引 記 式 実 取 受 所 全 内 番
 部 約 様 和

14字

C 1級の漢字で7種の本全てで扱われている漢字

故

1字

という結果となった。

7. 活字が小さくなったことの解決策として、巻頭の「この本を使う人のために」の中で、このページを拡大コピーして使用することを勧めている。